

# 令和7年度 第1回市川市博物館協議会

日 時 令和7年8月21日(木)  
午後2時～4時  
会 場 市立市川歴史博物館 2階講堂

## 会 議 次 第

### 1. 議 題

#### (1) 報告事項

令和6年度 事業実施状況に対する自己評価について

令和7年度 館別事業計画について

#### (2) 協議事項

令和6年度 事業実施状況に対する外部評価について

市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画について

#### (3) その他

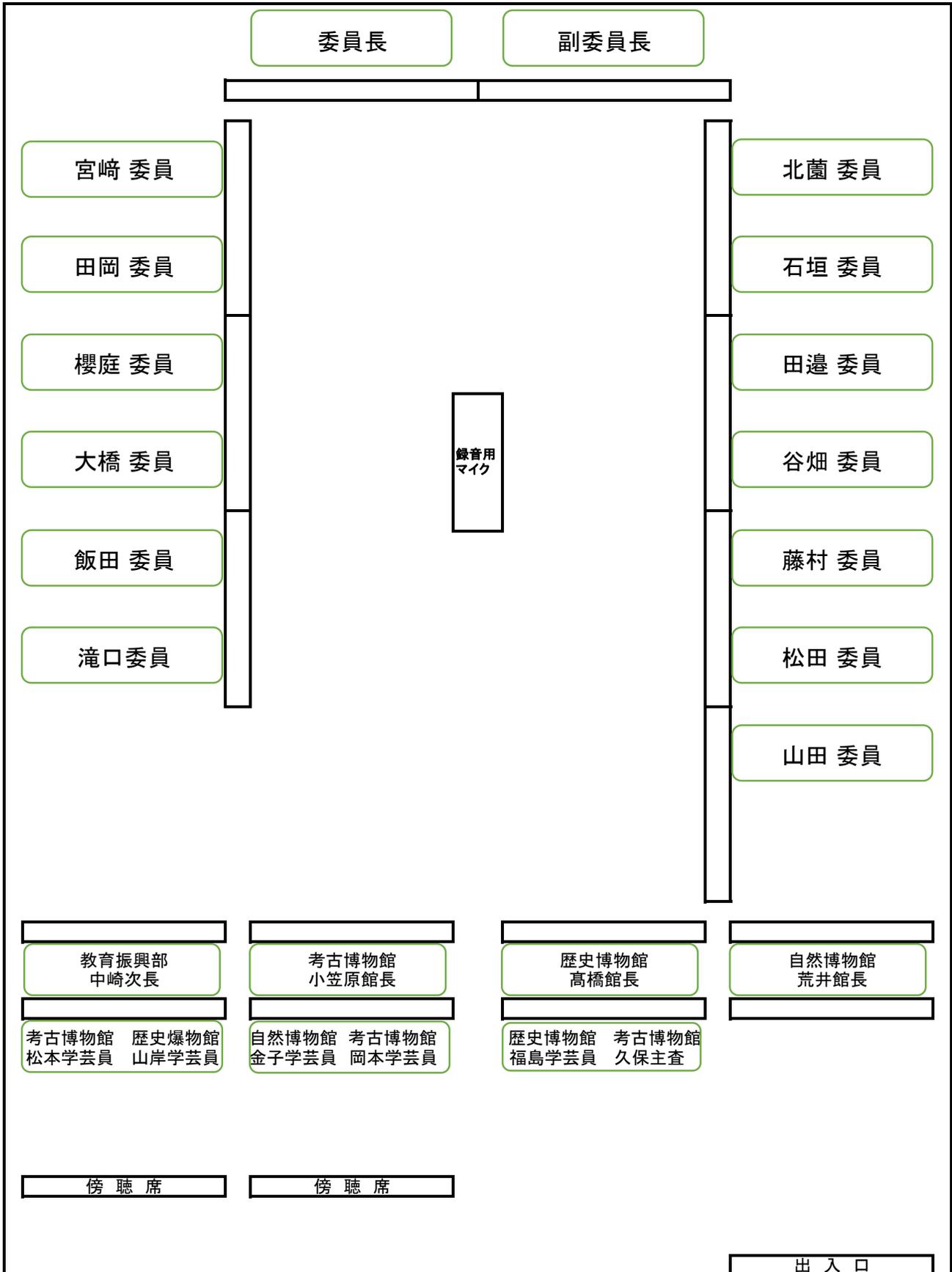
「第6回全国国府サミット in 市川」の開催について

次回協議会（開催日程等）について

令和7年度 第1回 市川市博物館協議会 席次表

日時: 令和7年8月21日(木) 午後2時00分

場所: 市立市川歴史博物館 2階 講堂



## 令和7年度市川市博物館協議会委員名簿

令和7年8月21日現在

区分	氏名	役職または専門分野	初委嘱年月日
1号委員	みやざき やすし 宮崎 康	和洋国府台女子中学校高等学校 校長	令和5年7月5日
	たおか みか 田岡 美賀	市川市立稲荷木小学校 校長	令和6年6月7日
2号委員	さくらば ひでき 櫻庭 秀喜	市川博物館友の会 会長	令和1年7月5日
3号委員	おおはし やよい 大橋 弥生	市川市家庭教育指導員	令和4年6月3日
	おおはし あおい 大橋 愛生	市川市PTA連絡協議会 事務局長	令和7年7月5日
4号委員	いいた はるしげ 飯田 晴茂	堀之内自治会 代表	令和6年6月7日
	たきぐち まさや 滝口 正哉	立教大学 准教授	令和3年7月5日
	きたぞの ゆりこ 北園 由利子	市川市立新浜幼稚園 園長	令和7年7月5日
	いしがき さとる 石垣 悟	國學院大學 准教授	令和7年7月5日
	たなべ ゆみこ 田邊 由美子	千葉県教育庁教育振興部文化財課 主任上席文化財主事	令和1年7月5日
	たにはた みほ 谷畑 美帆	明治大学黒曜石研究センター 客員研究員	令和7年7月5日
	ふじむら あつし 藤村 淳	元 筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭	令和3年7月5日
	まつだ あきら 松田 陽	東京大学大学院 准教授	平成29年7月5日
	やまだ こうせい 山田 耕生	千葉商科大学 教授	令和1年7月5日

令和6年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 基 C:改善の余地あり(60%程度)  
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 -:事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	文化財保護事業や市史編さん事業と連動しながら調査を進めた。	引き続き実施する。
	市内出土資料調査	年間を通して実施する。	5回	B	各地に保管されている市川市内の貝塚出土資料や、大字国分出土直刀の故地などを調査した。	引き続き実施する。
	博物館資料の管理(資料台帳のデジタル化)	収蔵品の管理	実施しなかった。	C	収蔵品台帳の再整備は市史編纂が終了するまで延期することとした。	令和8年度以降に再開する。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等)	年間約1,000点を登録予定	年間を通して758冊を登録した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	寄附資料や常設展示資料の台帳整備も合わせて進める。
	各種研究会への参加、各地博物館等の視察	年間10回以上	10回	B	研究会参加や考古資料、図書の調査、博物館視察などを積極的に実施した。	引き続き実施する。
	文化財担当関係調査	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	A	曾谷貝塚や下総国分寺などの史跡保存活用計画作成に協力したほか、国府や国分寺の調査現場を視察、助言した。	引き続き実施する。
	市史編纂関係調査(曾谷貝塚・下総国府)	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	曾谷貝塚の報告書を刊行し、資料は収蔵施設に保管した。	曾谷貝塚は作業を終えた。
赤米調査(簡単な古代米栽培)	4~11月	年間を通して実施した。	B	栽培しながら一部を館入口で公開し、収穫後も穎稻を展示し配布した。	長棹種2種を加えて4種を栽培する予定である。	

令和6年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	16,761人	B	年間を通して開館した。	引き続き実施する。
	常設展示解説	年間を通して、実施した。	776人	B	常設展示を補うため、学芸員から声がけするなど積極的に実施した。	
	ホール小企画展1「市川出土の注目資料」	前年度～7/30	前年度～7/28 5,519人	B	前年度の館務実習生が製作した。	
	ホール小企画展2「鬼高遺跡の宝もの」	8/11～次年度	8/11～次年度 10,717人	B	館務実習をコロナ前の日程に近い10日間で実施し、小展示を製作した。	
	県指定・銅像誕生釈迦如来立像修理復元	調査成果の報告と公表	館報52号に掲載	B	有識者に報告文を依頼し、報52号に掲載した。	

令和6年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ①全市民対象	歴史セミナー	6/8～2/8	4回 81人	B	歴史カレッジの後継講座で、考古は全8回のうち4回を担当した。	引き続き実施する。
	歴史セミナー公開講演会	10/5	169人	B	大河ドラマに関連して「藤原道長と紫式部の時代」と題し専門家の話をうかがった。	引き続き実施する。
	下総国府発掘調査報告会	5/25	82人	B	事業計画にはなかったが、文化財グループに協力して実施した。	
	考古博物館講座「『続日本紀』を読む」	月1回	続日本紀 10回、519人	B	受講生を二グループに分けて1日2コマ実施した。	引き続き実施する。
	考古博物館指導員養成講座(縄文学習・火おこし・組紐)	3種 5回	のべ16人	B	新規のボランティアを要請した。	人数の増減を考慮して判断する。
	ボランティア研修日・活動日(縄文学習・火おこし・組紐)	年間を通して、実施する。	34回、179人	B	目的意識や技術の維持、情報交換のために積極的に実施した。	引き続き実施する。
	考古博物館体験学習(組紐・勾玉・土偶づくり・縄文服・火おこし)	前年度と同程度に実績	69回 1,172人	A	実施回数及び参加者数がともに前年度比1.2倍となり、昨年度実績を上回った。	同等程度の実績を目指して引き続き実施する。
	夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	362人	C	前年度に引き続き実施したが、3割近く減少した。	傷んだスタンプを交換したり、新たに製作して充実させる。
	オータムフェスタ	11/4	104人	B	考古では、クジラの下でコンサートを実施した。	史跡を活用し一体的な運用を図るため、堀之内貝塚公園で野外コンサート形式にしたい。
	土器・土偶をつくろう	11～12月	4回、のべ136人	B	例年どおり開催した。	引き続き実施する。
	縄文体験フェスティバル	3/23	858人	B	例年どおり開催した。	引き続き実施する。
	市川市民まつり	11/2	202人	B	組紐及び資料の展示・解説を実施した。	引き続き実施する。
	アイ・リンクタウン展望施設 歴史年表設置	7/2～	除幕式 82人、ラリー666人	B	除幕式を経て一般公開し、デジタル地域通貨を付与するスタンプラリーを開催した。	クイズ形式でデジタル地域通貨を付与する事業を検討している。

令和6年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	学校巡回展「直刀」	国分地域近隣の小学校	5校 2,936人	B	国分地域で出土した寄贈直刀を紹介した。	同展示を中学校に巡回する。
	小学校向け体験学習指導	要請次第で対応。	17校で実施 1,646人	B	出張形を中心に実施した。	一部来館形で実施する。
	中学生職場体験指導	要請次第で対応。	4校 8人	B	4校の申込を受けて実施した。	要請があれば、対応していく。
	高校生ボランティア活動支援	要請次第で対応。	未実施	-	要請がなかった。	要請があれば、対応していく。
	小・中・高校生調べ学習指導	要請次第で対応。	実施	B	随時、対応しているが、概ね満足していただいている。	要請があれば、対応していく。
	大学生学芸員課程館務実習指導	6/28、7/30～8/9	4大学、4人	B	小企画展の製作を中心に実習した。	次年度も継続して実施する。
	大学生展示見学指導	8/20	1回 29人	B	大学コンソーシアム市川から見学の依頼があった。	要請があれば、対応していく。
	千葉商科大学出張展示	年間を通じて実施する。	実施	B	常設展示、10月に清掃・点検。	次年度も継続して実施する。
	中堅教諭等資質向上研修	要請次第で対応。	未実施	B	要請がなかった。	要請があれば、対応していく。
教育普及事業 ③地域連携	友の会事業への協力	要請次第で対応。	年間を通して実施した。	B	講演や会報「かいづか」への執筆などに協力した。	要請があれば協力する。
	公民館講座	要請次第で対応。	2回 48人	B	西部公民館の主催事業に協力した。	要請があれば協力する。
	地域まつりへの出張展示、解説体験指導	要請次第で対応。	4件 3,378人	A	曾谷縄文まつり、市民まつりに参加した。	今後も地域まつりには積極的に出展する。
	市内公共施設出張展示および解説	要請次第で対応。	未実施	B	要請はなかった。自主事業としては学校巡回展を優先したい。	
	外部依頼講座	要請次第で対応。	5件 983人	A	依頼により市川市内外の事業に協力した。	要請があれば協力する。

令和6年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
運 営	館報第52号発行	3月、500部	3月、500部	B	令和5年度事業の実績と、誕生釈迦仏調査報告。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館 だよりの制作及び発行	4回/年	4回/年	B	博物館のコラムや事業告知等を掲載した。	制作及び発行を継続する。
	令和7年度考古・歴史 博物館入館案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	年度末に次年度の主要事業を掲載して発行した。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館公式 Webサイト、SNS運営	年間を通して実施 する。	年間を通して実施 した。	A	貸借文書の手続きを見直して簡略化し、Webサイトに掲載している書式の説明を充実させた。	
	施設の維持管理	年間を通して実施 する。	年間を通して実施 した。	B	エレベーターが複数回故障し、修繕費用が高額であるため運用を休止している。	複数年の大規模修繕を計画した。次年度はエアコン、トイレ、エレベーターを修繕する。
	施設整備（休館）	2月上旬	2/18～21	B	臨時休館により館内の清掃を実施した。	引き続き実施する。
	考古・歴史博物館DTP機 器リプレース	12/1	12/1	B	関連部署や民間事業者の協力により機器を更新した。	5年後をめどに更新する。

令和6年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 価 基 準  
 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 C:改善の余地あり(60%程度)  
 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 —事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	新着収蔵の古文書(90点)の整理と館蔵資料(900点余り)の再整理、館蔵資料(100点余り・大型資料を含む)の再整理が進んだ。	昨年度よりは進んだが、一つの家文書の数が膨大なため、全体的には進んでいない。民具資料は既存の収蔵資料の再整理を優先したため新着資料は進んでいない。
	市内学校所蔵資料調査	事前に調整して実施する。	2校	—	稲荷木小学校からの依頼で館に移管できる資料があるか調査を行った。	郷土学習室のリニューアル等の要望があれば、協力をする。
	資料及び古写真のデータベース化	年間を通して実施する。	古文書目録のデジタル化	B	前年度から続いていた5件(800点余り)の古文書目録のデジタル化が進んだ。	引き続き会計年度職員の協力を得て進めていく。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間304冊を登録	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	図書館の整理を進める。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間(10回以上)を通して実施する。	概ね年間を通して実施した。	B	千葉県史料保存活用連絡協議会(3回参加)、関東地区博物館協会(1回参加)、全国歴史系博物館協議会(1回参加)、千葉県博物館協議会(1回参加)、房総民俗研究会(2回参加)、他館見学(7館)	次年度も引き続き実施し、資料の保存活用や事業に生かす。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	年間を通して開館した。古民家の一部の資料を見やすくした。	展示資料の入れ替えや古民家の整備等を進める。
	学校連携学習資料展「発見・体験 昔の暮らし」	9月~1月	9/7~1/26 入館者数9,096人	A	小学校の校外学習に合わせて9月からの開催とした。会期が2か月延びたことで、入館者数も前年度より4千人余り増えた。	再現展示の充実や体験できる展示を増やす。
	小企画展「季節の展示」等	時期に合わせて実施する。	①4/23~6/30 3,863人 ②7/20~9/10 5,072人 ③2/22~3/30 2,568人	A	年間を通して実施。(季節の展示・①「全力男子」、②夏「ちょっと怖い絵展」、③春「花のよそおい」。※秋は収蔵資料展の資料を展示	今年度も季節の展示を中心に、年間を通して様々な内容の展示を行う。
	収蔵庫整理展		9/26~1/26 入館者数7,574人	A	学生ボランティアによる収蔵庫整理を行い、大型資料・製塩道具を中心に清掃、現状調査、デジタル撮影、成果報告展示を実施した。	引き続き実施する。
	収蔵資料展	9月~12月	9/14~1/26 入館者数8,384人	B	大学生博物館実習の一環による学習資料展と連携した展示「むかしの君たち」で、戦前のランドセルや教科書などを展示。好評であった。	引き続き実施する。
	常設展示解説	年間を通して実施する。	29回、118人	B	希望者に実施をしており、随時受け付けている。	引き続き実施する。

令和6年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ①全市民対象	歴史博物館講座（中世）	—	—	—	—	友の会の実施時期とずらして実施予定。
	史跡見学会	10/27	9人	B	親子向け見学会として中山法華経寺の歴史散策を実施した。	場所や対象年齢を再検討しつつ、今後も実施する
	体験学習指導員研修	10回	9回、53人	B	体験講座・古文書整理・資料修復等博物館事業の補助等を実施した。	引き続き実施する。指導員の数を増やしていきたい。
	昔の遊び体験（紙芝居、紋切り遊び、火打ち石等）	第1・第3日曜日 第2・第4土曜日	46回、658人	B	曜日の変更を行い、多くの人々（主に子供）に参加してもらえるようにした。	新たな遊びや同時開催の事業を増やす。
	季節の行事体験（わらリース作り）	12月	12/1. 40人	B	藁ないをしてもらう他、飾り付け用の紙垂や折り紙を準備し、体験者に飾り付けてもらった。	引き続き実施する。縄ない機を整備しつつ今後も活用する。
	昔の暮らし等の体験講座（洗濯体験、竹の水鉄砲作り、和綴じ本作り）	7月、8月	洗濯体験 7/28 2人 和綴じ本 8/6 4人 竹の水鉄砲8/18 36人	B	事業を再開し、申込受付を市のインターネットで実施した。	洗濯体験は近年の猛暑のため参加者の安全面を考え、次年度は実施しない。代わりに人気の竹の水鉄砲作りの回数を増やす。
	夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	380人	B	昨年度に続き実施した。	引き続き実施する。
	歴史セミナー	11/9～2/8	4回、70人	B	歴史カレッジの後継講座で、歴史博物館は全8回の内4回担当した。	引き続き実施する。
	ナイトミュージアム	—	—	—	実施せず、オータムフェスタに変更。	—
	オータムフェスタ	11/4	104人	B	演奏会や足踏みミシン体験・紋切り遊び等を実施。博物館・学生ボランティアに協力していただいた。	好評のため次年度も実施する。
縄文体験フェスティバル	3/23	993人	B	例年通りの体制となり、多くの来場者数があった。	引き続き実施する。	

令和6年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	申し込みを受けて実施する。	出前授業 2校 160人 資料貸出 1校	B	今年度も塩浜学園で「行徳の歴史」、富貴島小で「昔の暮らし」の出前授業を実施し、昭和学院中学校に戦時期の資料を貸出した。	申し込みがあれば実施する。
	小学生向け体験学習指導(昔の暮らし体験)	申し込みを受けて実施する。	20校、1,791人	B	今年度も学校連携学習資料展「発見・体験 昔の暮らし」を利用した体験学習を実施した。	引き続き実施する。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	4校、7人	B	4校の申し込みを受けて実施した。	申し込みがあれば実施する。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	実施した。	B	随時、対応している。	申込があれば実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	9/1、9/8～9/15に実施する。	6大学、6人	B	ガイダンスを含めて8日間実施した。	引き続き実施する。
	大学生展示見学指導	申し込みを受けて実施する。	—	B	依頼がないため実施していない	要請があれば、対応していく。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	—	B	依頼がないため実施していない	申し込みがあれば実施する。

令和6年度 歴史博物館 事業実施状況評価

		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	活動場所の提供、講演会講師、会報の原稿執筆、調査協力などを行った。	要請があれば協力をする。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。	市川公民館5/26 西部公民館11/15、11/22 若宮公民館12/22	B	全4回、73人の参加があった。	要請があれば協力をする。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	-	要請があれば協力をする。
	外部依頼講座	年間を通して実施する。	3回 108人	B	講座の講師依頼が3件あり協力をした。	要請があれば協力をする。
運営	令和5 歴史博物館館報（紀要）の制作及び発行	3月、500部	3月に500部を発行した。	B	博物館活動の年間記録及び調査研究の成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	B	博物館の事業内容や学芸員のコラム等を紹介した。	今後も継続して発行する。
	令和7年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	行事を修正した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	限られた予算内で適切な施設維持管理に努めた。	施設維持に必要な予算を要求する。

令和6年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 価 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 基 C:改善の余地あり(60%程度)  
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 -:事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理	収蔵台帳のweb公開を行う。	収蔵標本リスト(植物)をwebサイトでテスト公開した。	A	収蔵資料台帳をエクセルで管理しweb公開する、という新たな方針に基づき作業を進めた。収蔵庫の空調が壊れて室内環境が悪化したためボランティアさんにはお休みいただいたが、今回、収蔵標本リスト(植物)をwebサイトでテスト公開することができた。	
	資料の電子化	新規データ、未整理データの整理を進める。	未整理データのラベル付けが進んだ。	A	新規分および未整理分のデータのラベル付けが進んだ。新しいPCへのデータ移行も完了した。	継続する。
	図書管理	書庫を整理し、図書情報をエクセルファイルにまとめる。	図書データのエクセル化が進んだ。	A	図書資料について、ボランティアの方の協力を得て、書庫の整理が進んだ。web公開用のエクセルファイルの整備も行えた。	収蔵図書台帳をなるべく早くweb公開する。
	長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	調査・保全活動を継続する。	新たなボランティア作業を開始した。	A	従来の活動に加え、新たに絶滅危惧種の保全のための主催行事を立ち上げ、ボランティアの方と環境保全作業を行った。	継続する。
	トビハゼ調査	調査を継続する。	例年通りの調査を行った。	A	「トビハゼ保全 施設連絡会」の運営(会議、観察会支援、情報交換)と、巣穴調査、稚魚調査を実施した。	継続する。
	ヒヌマイトトンボ調査	調査を継続する。	例年通りの調査を行った。	A	市川市指定天然記念物であるヒヌマイトトンボの生息を確認した。	継続する。
	剥製製作委託	予算に応じて実施する。	予定通り実施した。	A	鳥類の剥製標本を作製した。	毎年、一定数を作製できるように予算を維持する。
	各種研究会への参加、関連施設の視察	適宜実施する。	依頼があったものについて参加した。	B	資料燻蒸に関する県博協の講習会に参加した。	可能な範囲で参加を検討する。

令和6年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
展示事業	常設展示	年間10万人の来館者を目指す。	10万人以上の来館者があった。	A	目標の10万人を超える来館者があった。 (入館者:131,041人、外部サービス利用者:4,048人、合計135,089人)	引き続き、入館者数の維持に努めていく。
	特別展示室の常時活用(飼育展示など)	常設展示と同じ	常設展示と同じ	A	上記と同じ	上記と同じ
	ホール小展示(飼育展示など)	常設展示と同じ	常設展示と同じ	A	上記と同じ	上記と同じ
	企画展	企画展「いきものの飼育」を開催する	企画展「いきものの飼育」を予定通り実施した	A	企画展「いきものの飼育」を予定通り実施した	
	展示解説	必要に応じて実施する	フロアにいる学芸員に多くの声掛けがあった。	A	展示室やフロアで、学芸員と来館者がコミュニケーションを図る機会を多く持つことができた。	引き続き、進めていく。

教育普及事業 ①全市民対象	長田谷津散策会	年12回実施し、1回あたり20人の参加を目指す。	12回計画し、実施10回、雨天中止2回。1回の平均参加者数は23.4人だった。	A	計画した回数を実施し(雨天中止を除く)、1回の平均参加者数が目標の20人を超えた。	継続する。
	大町自然観察園環境整備	年9回実施し、1回あたり10人の参加を目指す。	9回計画し、実施8回、雨天中止1回。1回の平均参加者数は5.9人だった。	C	計画した回数を実施し(雨天中止を除く)、1回の平均参加者数は目標の10人を下回った。	継続する。
	スナヤツメ・レスキュー	年5回実施し、1回あたり10人の参加を目指す。	5回計画し、実施4回、雨天中止1回。1回の平均参加者数は3.5人だった。	D	計画した回数を実施し(雨天中止を除く)、1回の平均参加者数は目標の10人を下回った。	webサイトのみの告知。参加者を増やすとともに、保険に充てる予算を確保して実施回数を増やす。評価は参加者数で行うべきか、生物個体群の状況で行うべきか?
	ホトケドジョウ・レスキュー	年5回実施し、1回あたり10人の参加を目指す。	5回計画し、5回実施。1回の平均参加者数は3.6人だった。	D	計画した回数を実施し(雨天中止を除く)、1回の平均参加者数は目標の10人を下回った。	webサイトのみの告知。参加者を増やすとともに、保険に充てる予算を確保して実施回数を増やす。評価は参加者数で行うべきか、生物個体群の状況で行うべきか?

令和6年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。	19回実施し、1,834人の参加があった。	A	依頼の中心は市内の小学校。学校に出かけて教室や特別教室で授業を行うほか、校庭や、近くの場所で野外観察も行っている。すべての依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	グリーンスクール	申し込みを受けて実施する。	12回実施し、945人の参加があった。	A	依頼の中心は市内の小学校。中学校の特別支援学級の依頼もあった。自然博物館に隣接する自然観察園（長田谷津）で自然観察を行う。すべての依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	その他	申し込みを受けて実施する。	5回実施し、88人の参加があった。	A	中高の生物サークル支援、大学や専門学校の野外実習の支援、職場体験、大学コンソーシアムの講義と野外研修を行った。すべての依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	申し込みを受けて実施する。	1回実施した。	A	4大学4名の学生が実習を行った。	依頼に応じて実施する。

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	一般講師派遣	申し込みを受けて実施する。	37回実施し、931人の参加があった。	A	自然環境課、少年自然の家、中央図書館（こどもとしょかん）、行徳図書館、花と緑のまちづくり財団、市内公民館、町会、葛西臨海水族園、市内外の市民団体からの依頼があった。すべての依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。

令和6年度 自然博物館 事業実施状況評価

運 営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	A	予定通り発行したが、発行が遅れた号があった。	予定通り発行する。
	令和4年度自然博物館年報の制作及び発行	3月、500部	実施した。	A	予定通り実施した。	予定通り発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	A	予定通り実施した。また、5月に収蔵庫専用の空調機が壊れたことに対し、9月補正で対応することができた（令和7年6月完成）。	年間を通して実施する。

## 令和7年度 考古博物館 事業計画 250227

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・ 調査研究 保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理及びデータベース化	1,000点/年	
	2. 市内出土資料調査	年間を通して実施	
	3. 博物館資料のパソコン管理（収蔵品・図書・住所ほか）	1,000件/年	
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	5. 文化財担当関係調査（曾谷貝塚・国分寺 史跡保存活用）	年間を通して実施	
	6. 市史編纂関係調査	〃	
	7. 赤米調査（簡易な古代米栽培、不耕起・長稈品種）	4～11月	
展示	1. 常設展及び北国分駅構内展示	年間を通して実施	
	2. ホール小展示「鬼高遺跡の宝もの」（令和6年度館務実習展示）	～7/27(日)	
	3. ホール小展示「縄文時代関係」（令和7年度館務実習展示）	8/9（土）～1年間	
市民向けの 教育普及	生涯学習拠点として市民の 学びと体験を支える事業	1. 市川歴史セミナー 400円（資料200円+公開講演会200円）	6月～2月 第2土曜日（全8回）
		2. 市川歴史セミナー公開講演会 駒澤大学菅野先生（歴）	
		3. 考古博物館講座『続日本紀』を読む	4/23(水)～第4水曜日、7・8月休
		4. 山路学芸員最終講座(仮) 歴博講堂	3/29（日）
		5. 火おこし・縄文学習・組紐指導員の養成講座・活動支援	土・日曜日ほか
		6. 夏休みスタンプラリー	7・8月
		7. オータムフェスタ（旧：博物館コンサート）	11月
		8. 土器づくり（もしくは土偶づくり、友の会共催）	11・12月
		9. 縄文体験フェスティバル（第26回）	3/22(日)
		10. 市川市民まつり出展	11/3（月祝）
		11. アイ・リンクタウン年表設置・関連イベント（歴）	年間を通して実施
		12. デジタル地域通貨「ICHICO」ポイント付与（歴）	4～2月
学校関連の 教育普及	子どもの成長や学びを 支援する事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展「(伝) 大字国分出土直刀」	9～2月
		2. 小学生向け縄文体験・出張授業	4～7月
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導（ガイダンス1日、実務10日）	6/27（金）、7/29(火)～8/8(金)
		5. 千葉商科大学出張展示	年間を通して実施
		6. 大学コンソーシアム市川	8月
		◎教員関連	
1. 市立小中学校教員研修	依頼により実施		
地域連携の 教育普及	地域の文化やコミュ ニティをサポ ートする事業	1. 博物館友の会事業協力、12月役員会行事打合せ	依頼等により実施
		2. 公民館講座（社会教育課）	〃
		3. 地域まつり（自治会/イオン）	〃
		4. 市内公共施設出張展示および解説（各所管課）	〃
		5. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	〃
運営	1. 令和7年度考古博物館館報（第53号）発行	3月、600部	
	2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年	
	3. 令和8年度考古・歴史博物館行事案内発行	3月、10,000部	
	4. 博物館協議会事務局事務	2回/年	
	5. 考古・歴史公式Webサイト、SNS運営、DTP機器管理	年間を通して実施	
	6. 施設の維持管理、エアコン改修・トイレ修繕等	年間を通して実施	
	7. 展示室等清掃（休館）	2月上旬	
	8. 登録博物館再登録	6月	

## 令和7年度 歴史博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・ 調査研究 保管及び	1. 古文書類の調査・整理	500点/年	
	2. 第一収蔵室民具資料整理	通年	
	3. 市内小学校所蔵資料調査	依頼により実施	
	4. 市内民俗行事調査	年間を通して実施	
	5. 博物館資料のパソコン管理(図書管理・住所管理)	500件/年	
	6. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	7. 文化財担当関係調査	年間を通して実施	
	8. 市史編纂関係調査(協力)	〃	
展示	1. 常設展	年間を通して実施	
	2. 学校連携学習資料展「発見・体験昔の暮らし」	9月～1月18日	
	3. 季節の展示等	年間を通して実施	
	4. 館務実習展	9/13(金)～12/27(金)	
市民向けの 教育普及	生涯学習拠点として市民の 学びと体験を支える事業	1. 市川歴史セミナー	6月～2月 第2土曜日(全8回)
		2. 市川歴史セミナー公開講演会 駒澤大学菅野先生	2月14日(土) 予定
		3. 夏休み体験講座(和綴じのメモ帳作り、水鉄砲作り)	7/28(日)、8/4(日)、18(日)
		4. 夏休みスタンプラリー	7・8月
		5. 夏休み・子ども1日学芸員	
		6. 見学会(歴史博物館周辺)	
		7. オータムフェスタ(音楽会含む)	11月予定
		8. 正月飾り・クリスマスリース作り	12/15(日)
		9. 縄文体験フェスティバル(第25回)	3月
		10. 昔の遊び体験	年間を通して実施
		11. 体験学習指導員定例研修会	1回/1ヶ月(主に第4土曜日)
		12. 古文書講座(中近世)	未定
学校関連の 教育普及	子どもの成長や学びを 支援する事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施
		2. 小学生向け体験学習指導	9月～1月18日
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	8/29(金)、9/5(金)～9/12(金)
		5. 学生調べ学習指導	年間を通して実施
		6. 大学コンソーシアム市川	8月
		◎教員関連	
1. 市立小中学校教員研修会	依頼により実施		
地域連携の 教育普及	地域の文化やコミュニティを サポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
		2. 公民館講座(社会教育課)	〃
		3. 地域まつり(自治会/イオン)	〃
		4. 外部依頼講座(他自治体及び市民団体)	〃
運営	1. 令和6年度歴史博物館館報発行	3月、500部	
	2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年	
	3. 令和8年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月	
	4. SNS等による情報発信	随時	
	5. 博物館協議会事務局事務	2回/年	
	6. 施設の維持管理	年間を通して実施	
	7. 施設整備(休館)	2月上旬	
	8. 登録博物館再登録	6月	

# 令和7年度 自然博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び 調査研究	1. 収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	2. 資料の電子化	年間を通じて実施	
	3. 図書管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	4. 長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	年間を通じて実施	
	5. トビハゼ調査	7月と10月に各1回	
	6. ヒスマイトトンボ調査	7月に数回	
	7. 剥製制作委託	3月に1回	
	8. 各種研究会への参加、関連施設の視察	可能な範囲で実施	
展示	1. 常設展（市川の自然）	年間を通じて実施	
	2. 特別展示室の常時活用（飼育展示など）	年間を通じて実施	
	3. ホール小展示（飼育展示など）	年間を通じて実施	
	4. 展示解説	適宜	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の 学びと体験を支える事業	1. 長田谷津散策会	毎月1回で12回
		2. 大町自然観察園環境整備	7月、8月を除く月1回、10回
		3. スナヤツメ・レスキュー	7月、8月を除く月1回、10回
		4. ホトケドジョウ・レスキュー	7月、8月を除く月1回、10回
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを 支援する事業	◎学校関連	
		1. 出張授業	依頼により実施
		2. グリーンスクール	依頼により実施
		3. その他（部活支援、職場体験・職業講和、教員研修など）	依頼により実施
		4. 大学生学芸員課程館務実習指導	8/1(金)～8/13(水)
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティ をサポートする事業	1. 一般講師派遣（関係課、公民館、市民団体等）	依頼により実施
運営		1. 自然博物館だよりの制作及び発行	1,500部/6回（隔月）
		2. 令和5年度自然博物館年報（No.35）発行	150部 8月
		3. 施設の維持管理及び庶務事務	毎日

## 令和6年度 事業実施状況に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）  
 B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）  
 C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）  
 D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）  
 ー：事業未実施のため、評価できず。

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・保管及び調査研究	考古	曾谷貝塚総括報告書を刊行し、保存活用計画策定に協力したほか、国府、国分寺の現地視察、研究会参加、博物館視察を実施した。	B	B		
	歴史	新着収蔵の古文書資料や館蔵資料の整理や目録作成が進んだほか、図書整理や研究会参加も年間を通して実施した。	B			
	自然	資料の整理、収集や資料台帳の電子化、資料未整理分のデータベース化、生物調査を進めた。	A			
展示	考古	通年開館したほか、小企画展「鬼高遺跡の宝もの」、学校巡回展、展示解説などを開催した。	B	B		
	歴史	年間を通して開館し小企画展「季節の展示」のほか、学校連携学習資料展など収蔵資料展を5件開催した。	B			
	自然	年間を通じて開館し、10万人を越す来館者があった。また、企画展「いきものの飼育」を実施、特別展示室の常時活用も継続した。	A			
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	考古	文化財グループに協力して下総国府調査報告会を実施し、100名ほどの参加者があったほか、歴史セミナー、公開講演会を実施した。	B	B	
	歴史	親子向け見学会として中山法華経寺の歴史散策を実施したほか、昔の遊び体験を実施した。	B			
	自然	長田谷津や大町自然観察園等の観察会を開催したが、1回あたりの平均参加者数が目標を下回ることがあった。	B			
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	考古	小中学校や大学の依頼に協力した。	B	B	
	歴史	参加校及び参加者数がコロナ前と同様になった。	B			
	自然	市内小学校や幼稚園、大学等から計37件の依頼があり、全ての依頼に応じて実施した。	A			
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	考古	公民館講座や地域まつり、依頼による市外講演会などに参加した。	B	B	
	歴史	友の会の自主事業や外部依頼などに協力した。	B			
	自然	関係課、公民館、市民団体等から計37件の依頼があった。	A			
運営	考古	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	B	B		
	歴史	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	B			
	自然	博物館だよりや年報を予定通り制作したほか、収蔵庫専用の空調機が故障し、補正予算にて対応した。	A			

## 市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画

「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」第3条の記載に合わせて文言を変更しました。



いつも新しい流れがある 市川

市川市教育委員会 教育振興部 文化財課

(考古博物館・歴史博物館・自然博物館)

平成28年6月策定

令和〇年〇月改訂

## 目 次

第1章	方針の策定にあたって	1
第2章	市川市立博物館 <b>基本的</b> 運営方針	4
第3章	市川市立博物館 <b>基本的</b> 運営方針の体系	8
第4章	実施計画	10

付

市川市立博物館の設置及び管理に関する条例

市川市立博物館の設置及び管理に関する条例施行規則

博物館法

博物館法施行規則

博物館の設置及び運営上の望ましい基準

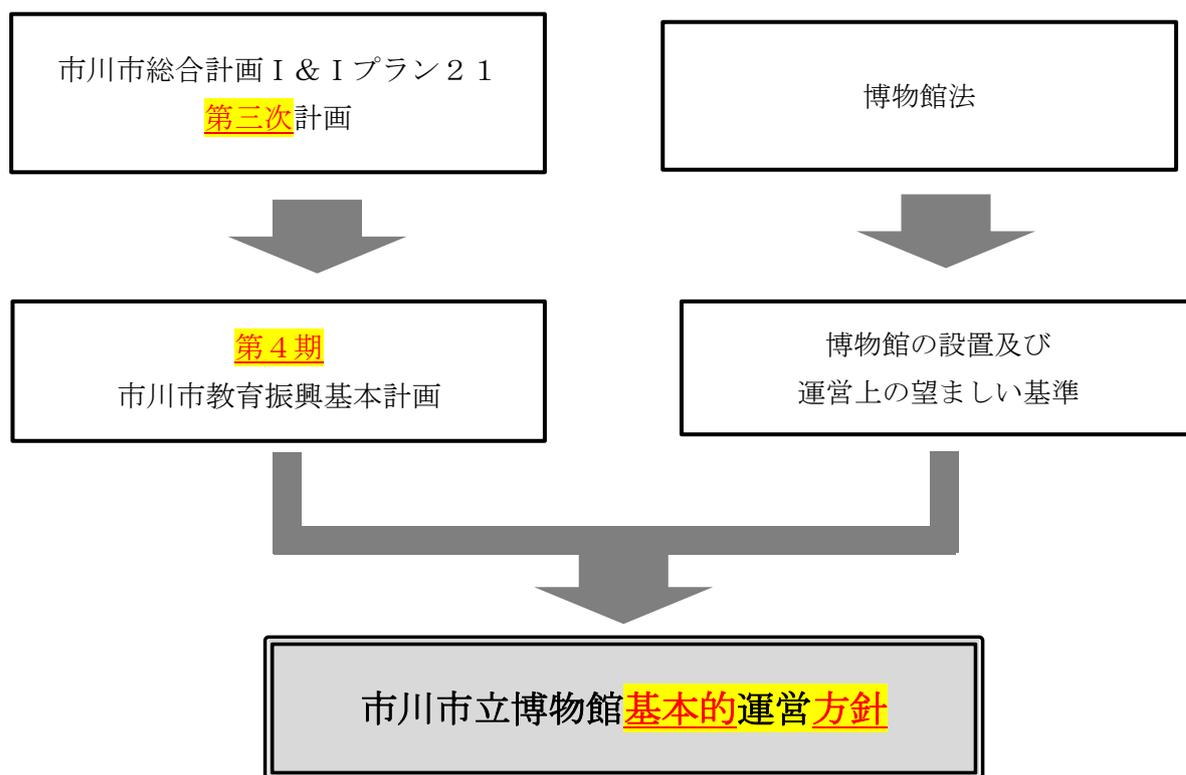
# 第1章 方針の策定にあたって

## 1. 方針の位置づけ

市川市教育振興基本計画（平成26年度から第2期令和6年度から第4期）は、市政運営の根幹である「市川市総合計画I & Iプラン」における第~~二~~三次基本計画（平成~~2~~9令和5年4月）の教育分野に関する基本計画として、国の第~~二~~三期教育振興基本計画（平成~~2~~530年度）に照らし合わせて策定されました。

また、文部科学省から示されている「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の第三条では、設置の目的を踏まえ、資料の収集・保管展示、調査研究、教育普及活動等の実施に関する基本的な運営方針を策定し、公表するよう努めることされています。

本方針は、この規定に基づき、市川市教育振興基本計画を受けて策定するものです。



「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づく方針であることを追記。  
また記載されていた上位計画を現在の計画に更新しました。

方針策定時の経緯はそのまま残し、改訂理由を追記しました。

## 2. 方針策定の経緯

本市では、市立博物館の運営について「市立博物館中期計画」（平成23年度～平成25年度。以下「中期計画」という。）に基づいて事業を実施してきました。その成果について、平成26年7月30日に開催した平成26年度第1回市川市博物館協議会（以下「協議会」という。）において評価を行い、引き続き新たな期間の計画を策定することとされていました。

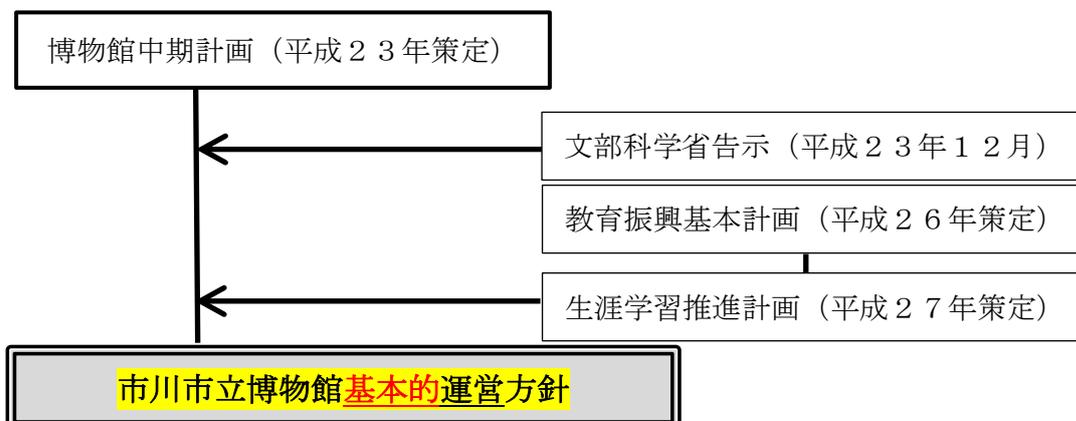
中期計画の策定後、平成23年12月に博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第8条の規定に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成23年12月20日文科科学省告示第165号。以下「望ましい基準」という。）が告示され、第3条において、基本的運営方針を策定し、公表するよう努めるものとされました。また、同条第2項においては、この基本的運営方針を踏まえ、事業年度ごとに、その事業年度ごとの事業計画を策定し、公表するよう努めるものとされています。

さらに、本市では平成26（2014）年から第2期市川市教育振興基本計画が実施され、これを受けて平成27（2015）年に生涯学習部門の個別計画である第四次市川市生涯学習推進計画（平成31年度まで）が策定されました。

こうした経緯から、本市では従来の中期計画を発展的に見直し、社会状況の変化や各種基本計画の内容を反映して、新たに博物館の基本的運営方針として「市川市立博物館運営基本方針」及び「事業計画の基本方針」を策定することとしました。

策定から8年が経過し、博物館法改正など、博物館を取り巻く環境は変化しており、これらの時代の変化に対応するため、この度、必要な改訂を行うものです。

なお、事業年度ごとの事業計画（単年度事業計画）については、従来どおり協議会による審議を経て策定し公表するとともに、事業実施後には成果についても協議会による評価を受けて、次年度の事業計画に反映してまいります。



生涯学習推進計画終了に伴い、計画期間を  
教育振興基本計画の計画期間と合わせました。

### 3. 計画期間

「第4期市川市教育振興基本計画」の計画期間が令和6年度から5年間とされていることから、「博物館基本的運営方針」もこれに準じて令和10年度末までを適用期間とし、期間末に見直しを含めた検討をするものとします。

なお、単年度の事業計画については、従来どおり協議会による審議を経て策定し、実施していきます。

令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
第4期 教育振興基本計画			第5期 教育振興基本計画
市立博物館基本的運営方針			基本的運営方針 改訂
単年度 事業計画	単年度 事業計画	単年度 事業計画	

### 4. 博物館活動の現状

考古博物館及び歴史博物館は、市の北西部、北国分・堀之内地区の国指定史跡堀之内貝塚公園に隣接する、歴史と文化と緑が織りなす、魅力にあふれた立地条件の下にあります。

考古博物館は、原始から奈良・平安時代までの「考古資料」を、歴史博物館は、鎌倉時代以降近・現代までの古文書や民具等の「歴史・民俗資料」を基に、両館により市川の歴史的、地域的特色を通史的に明らかにし、歴史・民俗等、文化情報の集積・発信基地である地域に根ざした歴史系博物館としての役割を担っています。

自然博物館は、近年各地で起こっている谷津・里山の保全の見本とされる市北東部の大町・大野町地区の長田谷津と隣接して立地しており、「身近な自然の再発見」をテーマに、自然観察・自然体験のためのフィールドを持った博物館として、市の自然環境や動植物の情報を集積し発信する自然科学系博物館としての役割を担っているものです。

3館ともに、担当する各分野の資料を博物館資料として収集し、整理保管・調査研究を通じその成果を活用して、常設展示や企画展示とその展示解説を行うほか、学芸員による講演会や公民館における講座、学校への出張授業及び各種行事での体験指導などを実施しており、特に学校の教育課程と連携し、体験学習プログラムの充実に努めています。各館それぞれに取り扱う分野に応じて工夫を加え、利用者のニーズや社会の要請に応える博物館活動を行っているところです。

## 第2章 市川市立博物館**基本的**運営方針

博物館法や文化芸術基本法に沿った内容を追記しました。また、このページのみ表記が「常体」(~だ。)であったため「敬体」(です。ます。)に統一しました。

### 1. 目的

本方針は、法に基づいて博物館が行うこととされている、資料の収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等を実施するにあたり、望ましい基準の規定に基づいて定める博物館の基本的な運営の方針であり、博物館の水準の維持及び向上を図ることにより、市民の教育、学術及び文化の発展並びに地域の活性化に貢献することを目的とします。

### 2. 博物館に求められる使命

博物館の基本的機能は、法第3条において、資料の収集・保管・展示、調査研究及び教育普及活動等と規定されています。

このことから、考古博物館及び歴史博物館においては、市内に残された考古・歴史・民俗等の資料について収集・保管・展示をするとともに調査研究を進め、後世に伝えること、また、自然博物館においては、市川の自然をテーマとして、市内の自然のありさまを記録・収集・保管・展示するとともに調査研究して後世に伝えることが個々の博物館の基本的な機能として求められています。

これらのことを踏まえると、3つの市立博物館に対しては、収集した資料や調査研究の成果を活用することにより、市民とともに、市川の自然・考古・歴史・民俗・文化に関する学びの場を作り上げ、発展させていくことが使命として課せられていると考えられます。

また、社会の変化にともなう利用者ニーズの多様化・高度化に応えつつ、生涯学習の拠点として、老・壮・青・少・幼の各年代に合わせた活動を展開するとともに、市内の地域それぞれの活性化に繋がる活動が求められています。

さらに今日的課題として、必ずしも博物館が主体となるばかりでなく、市民との協働による活動を展開していくことが望まれています。

また、地域の特色を生かした地域振興、観光資源との連携に加え、博物館の活動は、文化芸術により生み出された価値の継承・発展や新たな文化創造において役割を果たし得るとされています。

このような社会的及び時代的な要求に応えていくために、本方針では、博物館に求められるものとして、大きく「3つの使命」を定め、その下に7つの「施策の方向」を置くこととしました。

### 3. 「3つの使命」及び6-7つの「施策の方向」

#### (1) 生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える博物館

- ① 地域の自然・考古・歴史・民俗・文化的資産の保護と活用
- ② 博物館資料と博物館機能を活用した生涯学習機会の提供
- ③ 関連機関とのネットワークの充実と強化

#### (2) 子どもの成長や学びを支援する博物館

- ④ 学校等の支援と連携の強化
- ⑤ 家族で学び、体験する場の提供

#### (3) 地域振興や観光資源等としての博物館

- ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化等
- ⑦ 文化・芸術活動に対する情報提供

### 4. 「3つの使命」及び6-7つの「施策の方向」により目指すもの

これらの「3つの使命」及びその下の7つの「施策の方向」を定め、今後の博物館活動を展開する上での指針とし、市民の期待に応えられるよう運営していきます。

#### (1) 生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える博物館

- ① 地域の自然・考古・歴史・民俗・文化的資産の保護と活用

博物館が収集し、整理保管している様々な博物館資料は、市川の自然環境、考古、歴史、民俗及び文化についての貴重な資産であり、地域への愛着を深めるとともに、地域の魅力を高めるための資源でもあります。このことを踏まえ、博物館の基本的機能である資料の収集及び調査研究活動を充実させ、成果を上げることにより、それらの資産をより豊かなものとするに努めます。

また、その他の活動もより一層向上させ、魅力ある博物館であり続けるよう進めます。

さらに、体験の機会を提供する場として、実物を見て、触れて、体験する機会を提供することのできる博物館としての要求に積極的に応えていくと共に、**博物館資料等のデジタル・アーカイブ化を進めることで、資料の情報の保存と体系化、調査研究成果を含めた資料の公共化及び多様な創造的活動への資料の活用に寄与していきます。**

## ② 博物館資料と博物館機能を活用した生涯学習機会の提供

生涯学習社会とは、「いつでもどこでも誰でもが自らの自由意志で学ぶことができ、その成果が正しく評価される社会」（平成22年度文部科学省生涯学習政策局「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」報告書）とされている。

博物館については、市民に学習や体験の場を提供するにとどまらず、博物館において獲得した成果を活用し、博物館活動の支援や、地域又は団体活動の支援へと繋げていくことができる人材を育成すること、またそうした人材が活躍できる場を提供することも求められています。

価値観の多様化する現代社会において、広い意味での生涯学習のニーズに応えるとともに、そこで得られた知識や成果をさらに活用していくことについても、広く門戸を開いた博物館活動を展開します。

## ③ 関連機関とのネットワークの充実と強化

博物館が、学ぶことの喜びを共有する場となるよう、市民や関連機関とともに博物館活動を目指します。

そのためには、地域の教育機関やNPO、ボランティア団体、民間企業、近隣の博物館などとの連携や情報発信、情報共有がさらに重要です。

関連機関との連携をより密にし、博物館の魅力をさらに高めます。

### （2）子どもの成長や学びを支援する博物館

## ④ 学校等の支援と連携の強化

地域の自然環境、考古、歴史、民俗及び文化を知ることは、子どもの感性や想像力、人間性を豊かにする上でたいへん重要です。

博物館は、学校の学習活動に関連する資料を豊富に保有しています。また、実物資料を実際に見たり触れたり体験することができ、子どもたち一人一人の興味や関心に対して、学芸員や職員が直接対面して対応することもできます。こうした博物館の特性を活用することにより、学校での学習の効果をさらに高めることが可能です。

こうしたことから、博物館は子どもの学習活動の支援に積極的に取り組んでいます。子どもの地域についての学びや体験を支える方策として、学校における学習や体験活動を博物館の内外で支援します。これらの施策の円滑化を図るため、学校及び教員との連携を一層強化します。

また、学校教員への支援活動や情報提供にも、より積極的に努めます。

## ⑤ 家族で学び、体験する場の提供

子どもの教育については、家族の存在や役割は、時代を問わず非常に重要です。子どもから高齢者まで家族で学び、体験し、共に語り合うことができる場や話題があることは、今後ますます望まれます。

家族や家庭において、または日常生活の中で、博物館が身近な存在となるような活動を展開します。世代を超えた学習と対話の機会や場所を提供し、地域において誰にとっても魅力的な博物館となるよう努めます。

### (3) 地域振興や観光資源等としての博物館

## ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化等

価値観の多様化する現代社会においては、博物館は、市民や地域の資産であるばかりでなく、様々な市民活動や地域活動を活性化させるための資源であり、この資源がより有効に活用されるよう、環境を整えます。

また、地域から愛され、支持される博物館となるために、博物館を市民や地域コミュニティによる活動の場や成果の発表に利用できるよう目指します。

また、これからの博物館は、観光資源としての役割も求められていることから、アイ・リンクタウン展望施設に設置した歴史年表等の観光資源を活用し、市の観光部署等との連携を図りながら、事業を進めるよう努めます。

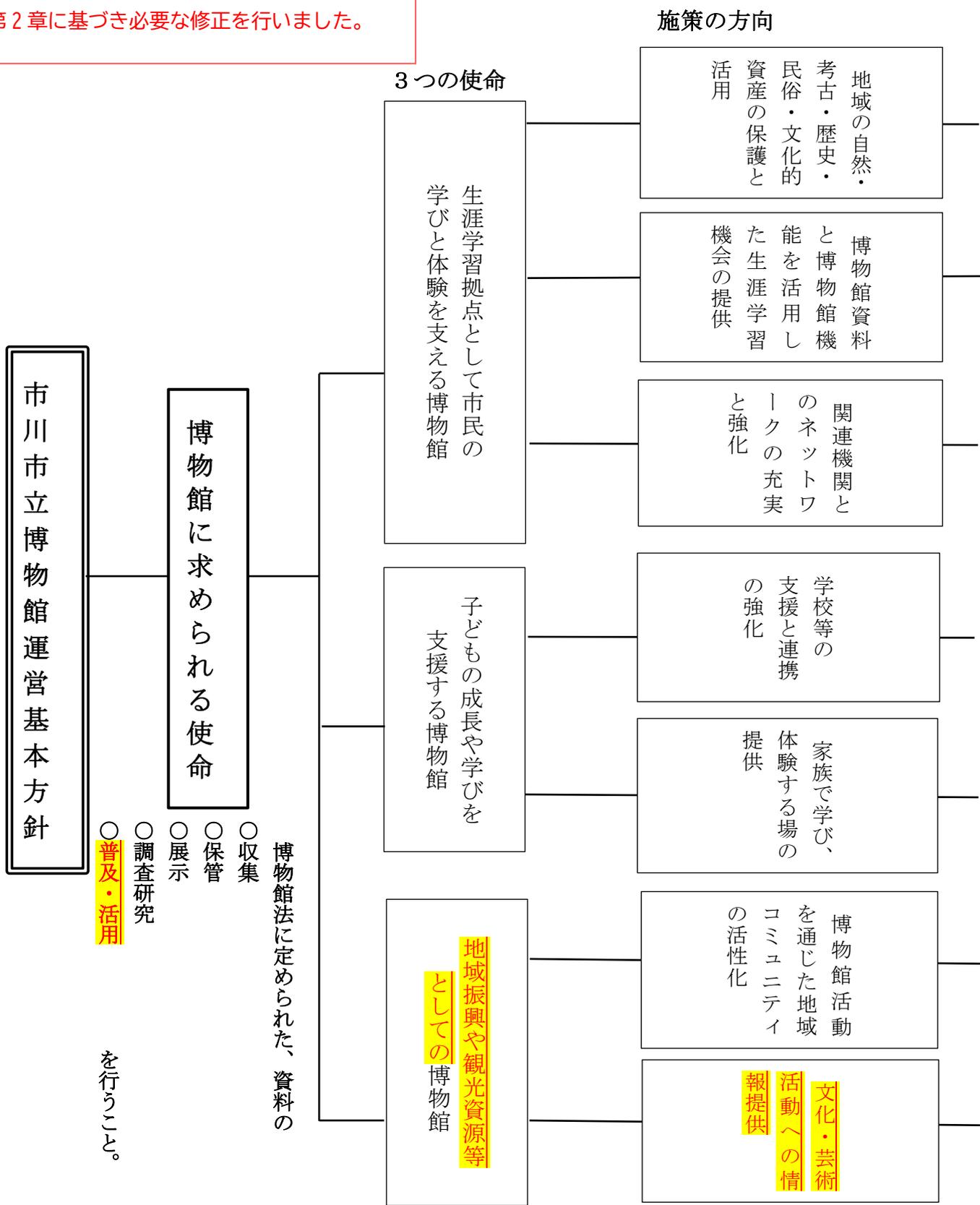
## ⑦ 文化・芸術活動に対する情報提供

芸術家等が博物館の展示や体験活動等を通じて、歴史や自然に触れることで、イメージーションを想起し、新たな芸術の形として創作されることも考えられます。

また、市史編纂といった文化的活動においても、博物館の果たす役割は、大変重要です。このことから、文化・芸術活動に関する取り組みに対し、その求めに応じて、正確な情報提供を行うよう努めます。

# 第3章 市川市立博物館**基本的運営**方針の体系

第2章に基づき必要な修正を行いました。



具体的な事業内容は、単年度の事業計画で、適切な事業展開を図ります。

また事業の基礎となる資料の収集、保管、展示、調査研究、普及・活用を行います。

以下は関連する事業の具体例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展企画展巡回展</li> <li>・学校支援、講師派遣</li> <li>・ <b>生きもの展示</b></li> <li>・情報発信事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>歴史セミナー</b></li> <li>・ 観察会散策会</li> <li>・ 夏休みイベント</li> <li>・ 教室見学会、講演会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野草の名札付環境整備</li> <li>・ 縄文体験・フェスティバル</li> <li>・ ボランティア養成講座</li> <li>・ 情報提供</li> </ul>
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察会、散策会</li> <li>・ 夏休みイベント</li> <li>・ 野草の名札付環境整備</li> <li>・ 常設展企画展巡回展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>歴史セミナー</b></li> <li>・ ボランティア養成講座</li> <li>・ 講師派遣</li> <li>・ <b>生きもの展示</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報発信事業</li> <li>・ 教室見学会、講演会</li> <li>・ 縄文体験、フェスティバル</li> <li>・ 情報提供</li> </ul>
---	--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師派遣</li> <li>・ 教室見学会、講演会</li> <li>・ <b>歴史セミナー</b></li> <li>・ ボランティア養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展企画展巡回展</li> <li>・ 縄文体験、フェスティバル</li> <li>・ <b>博物館友の会活動支援</b></li> <li>・ 情報提供</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展企画展巡回展</li> <li>・ 夏休みイベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校支援</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展企画展巡回展</li> <li>・ 夏休みイベント</li> <li>・ 教室見学会講演会</li> <li>・ ボランティア養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察会散策会</li> <li>・ 情報発信事業</li> <li>・ 縄文体験、フェスティバル</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師派遣</li> <li>・ 教室見学会講演会</li> <li>・ 歴史セミナー</li> <li>・ ボランティア養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展企画展巡回展</li> <li>・ 縄文体験</li> <li>・ フェスティバル</li> <li>・ 情報提供</li> </ul>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>情報提供</b></li> </ul>
---

## 第4章 事業計画

現在の市立博物館の取り組み状況を鑑み、「選択と集中」を追記するなど実態に合わせた修正を行いました

### 1. 事業計画及び実施状況

基本的運営方針に基づいて博物館活動を行うにあたっては、引き続きP D C Aサイクルの手法を用いて、効果的な運用に努めます。

事業計画については、年度毎に作成し、**また、その作成に当たっては、状況に応じた施策の選択と集中を行うことで、適切な事業展開を図っていきます。**

また、**計画に基づき実施した事業については、**従来どおり年度毎に実施状況報告を作成します。

これらのことにより、事業の実施によって得られた利用者のニーズや動向を次年度の事業計画に反映させていくとともに、事業の円滑で効果的な実施を図ります。

### 2. 評価活動

博物館活動に対する評価についても、前述のP D C Aサイクル手法の強化として、入館者アンケート及び参加者アンケート等による「利用者評価」並びに博物館職員による「自己点検評価」に加え、外部組織である協議会による評価を「外部評価」として取り入れます。

単年度及び個々の事業に関する評価については、毎年度、協議会で**評価を行い**、そこで得られた知見を参考にしながら、次年度以降の事業を実施する際に反映します。

また、計画期間全体における評価を**令和10年度に行い、その際に出された意見を次期計画に反映します。**

※第5章「第四次市川市生涯学習推進計画における博物館事業」は、生涯学習推進計画の終了に伴い、削除しました。

## 市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画

現 行	改 正 後
<p>&lt;表紙&gt;  <u>市川市立博物館運営基本方針及び事業計画の基本方針</u></p> <p>&lt;目次&gt;            第2章 市川市立博物館運営基本方針・・・・・・・・・・4            第3章 市川市立博物館運営基本方針の体系・・・・・・・・8</p> <p>P.1            市川市総合計画I&amp;Iプラン21 _____            第2期市川市教育振興基本計画            第四次 市川市生涯学習推進計画  <u>市川市立博物館運営基本方針</u></p> <p>P.2</p> <p><u>市川市立博物館運営基本方針</u></p> <p>P.3  <u>第四次生涯学習推進計画</u>の計画期間が平成31年度までとされていることから、「<u>博物館運営基本方針</u>」及び「<u>事業計画の基本方針</u>」もこれに準じて平成31年度末までを適用期間とし、期間末に見直しを含めた検討をするものとします。</p>	<p><u>市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画</u></p> <p>第2章 市川市立博物館基本的運営方針・・・・・・・・・・4            第3章 市川市立博物館基本的運営方針の体系・・・・・・・・8</p> <p>市川市総合計画I&amp;Iプラン21 第3次計画            第4期市川市教育振興基本計画            削除  <u>博物館法</u>  <u>博物館の設置及び運営上の望ましい基準</u>  <u>市川市立博物館基本的運営方針</u></p> <p><u>策定から8年が経過し、博物館法改正など、博物館を取り巻く環境は変化しており、これらの時代の変化に対応するため、この度、必要な改訂を行うものです。</u></p> <p><u>市川市立博物館基本的運営方針</u></p> <p>「<u>第4期市川市教育振興基本計画</u>」の計画期間が令和6年度から5年間とされていることから、「<u>博物館基本的運営方針</u>」もこれに準じて令和10年度末までを適用期間とし、期間末に見直しを含めた検討をするものとします。</p>

現 行

28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
生涯学習推進計画				
博物館運営基本方針				

P.4

第2章 市川市立博物館運営基本方針

～個々の博物館の基本的な機能として求められている。  
 ～発展させていくことが使命として課せられていると考えられる。  
 ～市内の地域それぞれの活性化に繋がる活動が求められている。

P.5

3. 「3つの使命」及び7つの「施策の方向」

- (3) 地域の文化やコミュニティをサポートする博物館  
 ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化

改 正 後

令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
第4期 教育振興基本計画			第5期 教育振興基本計画
市立博物館基本的運営方針			基本的運営方針 改訂

第2章 市川市立博物館基本的運営方針

～個々の博物館の基本的な機能として求められています。  
 ～発展させていくことが使命として課せられていると考えられます。  
 ～市内の地域それぞれの活性化に繋がる活動が求められています。

また、地域の特色を生かした地域振興、観光資源との連携に加え、博物館の活動は、文化芸術により生み出された価値の継承・発展や新たな文化創造において役割を果たし得るとされています。

3. 「3つの使命」及び6つの「施策の方向」

- (3) 地域振興や観光資源等としての博物館  
 ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化等  
 ⑦ 文化・芸術活動に対する情報提供

現 行	改 正 後
<p>～要求に積極的に応えていきます。</p> <p>P. 6  (3) <u>地域の文化やコミュニティをサポートする博物館</u></p>	<p>～要求に積極的に応えていくと共に、<u>博物館資料等のデジタル・アーカイブ化を進めることで、資料の情報の保存と体系化、調査研究成果を含めた資料の公共化及び多様な創造的活動への資料の活用</u>に寄与していきます。</p> <p>(3) <u>地域振興や観光資源等としての博物館</u></p> <p><u>また、これからの博物館は、観光資源としての役割も求められていることから、アイ・リンクタウン展望施設に設置した歴史年表等の観光資源を活用し、市の観光部署等との連携を図りながら、事業を進めるよう努めます。</u></p> <p>⑦ <u>文化・芸術活動に対する情報提供</u>  <u>芸術家等が博物館の展示や体験活動等を通じて、歴史や自然に触れることで、イメージーションを想起し、新たな芸術の形として創作されることも考えられます。</u>  <u>また、市史編纂といった文化的活動においても、博物館の果たす役割は、大変重要です。</u>  <u>このことから、文化・芸術活動に関する取り組みに対し、その求めに応じて、正確な情報提供を行うよう努めます。</u></p>
<p>P. 8  <u>地域の文化やコミュニティをサポートする博物館</u></p>	<p>○普及・活用  <u>地域振興や観光資源等としての博物館</u>  <u>文化・芸術活動への情報提供</u></p>

現 行	改 正 後
<p>P. 9</p> <p><u>下記は関連する取り組みの具体例</u>  <u>※番号は市川市生涯学習推進計画中の施策の事業番号</u></p> <p><u>単年度の事業計画で、内容の充実及び新規事業をさらに具現化します。</u>  <u>1-38, 44 歴史カレッジ</u>  <u>1-26 自然講座</u></p> <p><u>P. 10</u>  第4章 <u>実施計画</u>  ～従来どおり年度毎に作成していきます。また、これに基づいて実施する個々の事業についても、従来どおり年度毎に実施状況報告を作成し、自己点検評価を行います。</p> <p>外部評価の最終的な実施時期については、『第四次市川市生涯学習推進計画』において、第3章「生涯学習推進の方向」の5「主な取組と学習機会」の中で、達成目標の期間末として示されている平成31年度末とします。単年度及び個々の事業に関する評価については、協議会を開催する中で随時ご意見を伺い、そこで得られた知見を参考にしながら、次年度以降の事業を実施する際にすみやかに反映させていくこととします。</p> <p>第5章「第四次市川市生涯学習推進計画における博物館事業」</p>	<p><u>具体的な事業内容は、単年度の事業計画で、適切な事業展開を図ります。</u>  <u>また事業の基礎となる資料の収集、保管、展示、調査研究、普及・活用を行います。</u>  <u>以下は関連する事業の具体例</u>  ・<u>歴史セミナー</u>  ・<u>生きもの展示</u>  ・<u>博物館友の会活動支援</u>  ・<u>情報提供</u></p> <p>第4章 <u>事業計画</u>  <u>～また、その作成に当たっては、状況に応じた施策の選択と集中を行うことで、適切な事業展開を図っていきます。</u>  <u>また、計画に基づき実施した事業については、従来どおり年度毎に実施状況報告を作成します。</u></p> <p>単年度及び個々の事業に関する評価については、毎年度、協議会で<u>評価を行い</u>、そこで得られた知見を参考にしながら、次年度以降の事業を実施する際に反映します。  <u>また、計画期間全体における評価を令和10年度に行い、その際に出された意見を次期計画に反映します。</u></p> <p>削除</p>